

賛助会員の皆さまへ

この度は石巻復興きずな新聞舎の賛助会員になってくださり、本当にありがとうございます。

また、お約束の新聞のご送付が大変遅くなり、大変大変申し訳ありません…！！！！

新聞を発行すると配布が始まり、配布が終わると次の新聞発行日が目前で、その間に助成金の申請や報告や事務所の引越しがあり、今年度が始まってから怒濤の毎日でした。今後はタイムリーに新聞をお届けできるよう、がんばります！

### ●事務所移転しました！

5月7日（もう3か月も経ってしまいましたが…）、事務所の引越しを行ないました。市内外から12名もの方々がお手伝いに来てくださり、トラックも3台、地元の方にお借りすることができました。お布団、ストーブ、電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機、棚、扇風機などなど、中古の家具や家電を無償で譲っていただきました。また、ボランティアのミーティングで使うメインのテーブルは、大工さんで大川地区の記事をいつも書いてくださっている阿部良助さんが手作りで作ってくださいました。お部屋にぴったりの大きめで、角も丸くて、色もかわいい、素敵なおテーブル。見るたびに、「多くの方に支えられているんだなあ」ということを実感します。

新しい拠点は事務所スペースだけでなく、宿泊機能も備えています。2階に6畳の和室が2部屋あり、男子部屋、女子部屋にして、県外からのボランティアさんが宿泊できるようにしています。新しい畳も入り、なかなか快適なお部屋になっていると思います。皆さまも、石巻にお越しの際はぜひお立ち寄りください（宿泊される場合、宿泊費は無料ですが、拠点維持費用として1泊500円以上の募金をお願いしています。きずな新聞の活動に参加されなくても、空きがあれば宿泊は可能です）。

### ●新スタッフが入りました！

5月から、新しく地元の方を2名雇用し、週に2回ほど来てもらっています。

地元の方をスタッフとして雇用するというのは、実は「仮設きずな新聞」時代からの悲願でした。こうした活動を長く継続していこうと思ったら、責任を持って活動のコアな部分を担えるメンバーの育成は必須ですが、「ボランティア」というカタチではその責任を負ってもらうのが難しい部分もあります。これまで何度か、ボランティアとして中心的に関わってくださっている地元の方々に「スタッフにならないか」と声を掛けてみましたが、「この活動はボランティア（無償）だからこぞ、自分にとってやりがいがある」「自分の出来る範囲で関わりたいから、スタッフになるのはちょっと…」という方が多く、なかなか実現しませんでした。

それが今回、昨年度まで事務所を間借りさせていただいていた伊東義塾さんのご紹介で、スタッフとしてこの活動を支えてくれる2人と出会うことができました。思ったことや困りごとは言葉にすることが大切ですね！ 2人が活動に参加するようになって2か月ですが、今までより団体としても安定し、活動の幅も広がっていくことができそうです。

2人の自己紹介を裏面に載せましたので、お読みいただければ幸いです。

### ●企業・学校のボランティア受け入れ&イベント開催募集

5月20日には横浜の外資系企業「アディエント合同会社」様より17名の社員ボランティア（きずな新聞の活動には6名が参加）を、7月16-17日には埼玉県浦和学院高校様より16名のボランティアを受け入れしました。震災から6年以上が経っても、まだまだ関心を失わずにこうして通ってくださる方がいるのは、本当に感謝です！

10月以降、個人ボランティアの受け入れも開始しようと思っています。また今年度は、新聞配布だけでなく、仮設住宅や復興公営住宅でのサロン活動（お茶っこ）やイベントのコーディネートも行なっています。皆さまの中で、「石巻でこういうイベントがやってみたい！」「〇〇教室ができるよ！」などありましたら、ぜひお知らせください！

**\*\* 新スタッフご挨拶 \*\***

はじめまして。5月から石巻復興きずな新聞舎で、主に新聞の配布をしている熱海真紀です。よろしくお願ひいたします。

この活動を通して仮設住宅の住民さんと関わらせて頂いてますが、いろいろな事情で仮設を出る事ができていない方がたくさんいらっしゃいます。お話しを聞かせて頂いてると胸が苦しくなる事も多々ありますが、そんな不安な気持ちを抱えながらも、この石巻復興きずな新聞を楽しみに待っていてくれる方がたくさんいる事も知りました。

皆様のご協力のもと、このような素晴らしい活動が出来る事、とても感謝しております。

熱海 真紀

**\*\*\***

皆さん、初めまして。石巻復興きずな新聞舎の事務局スタッフとしてお世話になっております、阿部直美と申します。

簡単に自己紹介をさせていただきます。生まれも育ちも石巻で、夫（震災後、埼玉で単身赴任中）、2人の子供（どちらも高校生の男の子）、夫の両親と暮らしております。

震災から6年がたち、仮設住宅・みなし仮設から復興住宅に移転したり、家を再建したりする方が増え、「普通の暮らし」が戻りつつある中でも、いまだ今後の見通しのつかない方もおられます。6年という月日はあっという間に過ぎ去ったかもしれませんが、石巻の人達にとって、震災は昨日の出来事ではございません。

きずな新聞の配布には大勢の方が携っております。私は直接住民さんとお会いする事はありませんが、毎月楽しみに待っていらっしゃる方がたくさんいる事を知りました。仮設住宅も集約され、最後の一人になるまで配布を続けると言ったあきちゃんには頭が下がります。微力ではありますが、私も陰ながら応援しつつ、お手伝いが出来ればと思っております。

事務局の仕事をしている中で運営の厳しさ、大変さを知りました。皆さまのご寄付が石巻復興きずな新聞舎を支えて下さっております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

阿部 直美

**\*\*\*\*\***

仮設住宅がなくなるまで、あと約2年。復興公営住宅への移行に伴う仮設住宅の空洞化、孤立の深刻化、仮設住宅の集約化に伴う住民さんの負担など、仮設住宅に課題は山積みですが、スタッフ、ボランティア一同、力を合わせて楽しくがんばります！

今後とも、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

2017年8月5日  
石巻復興きずな新聞舎・代表 岩元暁子

**<石巻復興きずな新聞舎>**  
〒986-0813 石巻市駅前北通り1-5-3  
Tel: 090-6686-8317 Mail: [kasetsukizuna@gmail.com](mailto:kasetsukizuna@gmail.com)  
FB: [www.facebook.com/kasetsukizuna](http://www.facebook.com/kasetsukizuna)  
HP: <http://www.kizuna-shinbun.org>